

MOMAK Films @ home



APRIL



JUNE
2012



NFC所蔵作品選集 MoMAK Films @ home 2012

全作品 35mm. 外国語作品は日本語字幕付
4月から12月まで毎年5回開催
上映時間：各回 14:00～18:00 頃
(開場は 13:30)
上映作品は予告なく変更する場合があります。
上映作品、各回のスケジュールについては京
都国立近代美術館 HPにてご確認ください。
www.momak.go.jp/films/

料金：1プログラム 500円(当日券のみ)
※本券でコレクション展もご覧いただけます。

先着 100席
入場券は会場入口にて販売します。
当日 13:30 より当日分のすべての作品の整
理番号つき入場券を販売、開場します。各回
入替制です。2回目は上映開始の10分前に開
場します。
会場内での飲食はご遠慮ください。

主催：
京都国立近代美術館 (MoMAK)
東京国立近代美術館フィルムセンター (NFC)



企画協力：
川村健一郎 (立命館大学映像学部准教授)
富田美香 (立命館大学映像学部准教授)

お問い合わせ・会場：
京都国立近代美術館
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
Tel. 075-761-4111
www.momak.go.jp/films/



- 【交通案内】
- JR・近鉄京都駅前 (A1のりば) から市バス5番 岩倉行「京都金館美術館前」下車すぐ
 - JR・近鉄京都駅前 (D1のりば) から市バス100番 (急行) 醍醐寺行「京都金館美術館前」下車すぐ
 - 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 岩倉行「京都金館美術館前」下車すぐ
 - 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 平安神宮行「京都金館美術館前」下車すぐ
 - 市バス他系統「東山二条」または「京都金館美術館前」下車徒歩約5分
 - 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

MOMAK Films @ home



APRIL



JUNE
2012

【村山知義特集】

「すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—」展にあわせ、村山知義の多彩な活動と軌跡を、上映機会の少ない映画作品から概観。村山に大きな影響を与えたドイツ表現派、構成派の映画からは、村山が後に築地小劇場の公演で舞台美術を手がける『朝から夜中まで』(1921)を上映。村山自身の映画活動からは、製作にかかわった成瀬巳喜男の『雪崩』と大都映画の『地平線』を、少ないシーンながらも唯一の出演作『人間』を紹介する。

【日本の映画ポスター展 特集 1: ATGと外国映画】

今年のMoMAK Films @ homeは、今秋開催される「日本の映画ポスター芸術」展(会期：10月31日～12月24日)にあわせた特集を6月から開始。第一弾は、野口久光のポスターでお馴染みの『大人は判ってくれない』を軸に、主に60年代のアート・シアター運動で紹介された外国映画を特集。日本アート・シアター・ギルドの配給作品から、ポスター出品作の『尼僧ヨアンナ』に加え、『大地のうた』と『アルファヴィル』を上映。

【今後の上映スケジュール】

- 8月17日(金)・18日(土)
- 11月3日(祝・土)・4日(日)
- 12月8日(土)・9日(日)

4月／村山知義特集

2012年4月21日(土)・22日(日)

① 21日(土) 14:00-15:09

朝から夜中まで

VON MORGENS BIS MITTERNACHTS
(69分・18fps・35mm・無声・白黒)

'21(ドイツ)(監)(脚)カール・ハイネツ・マルティン(原)ゲオルク・カイザー(脚)ヘルバート・ユック(脚)カール・ホフマン(美)ロベルト・ネッパツハ(出)エルンスト・ドイッチェ、エルナ・モレナ、ローマ・バーン、アドルフ・エドガー・リホ、フリーダ・リヒャルト
デフォルメされた抽象的な空間、様式化された役者の演技や衣裳によっていびつな世界を描き出した表現主義映画の傑作。村山の代表作である「朝から夜中まで」(1924/26 再演、築地小劇場)の舞台装置の原点を見ることが出来る。若い女に魅せられ、大金を着服して身を減ぼす銀行の出納係の物語。撮影のカール・ホフマンはこの後「ドクトル・マブゼ」(1922)をはじめとするフリッツ・ラング作品を手がけた。

② 21日(土) 15:25-16:24

雪崩

(59分・35mm・白黒)

'37(P.C.L.映画製作所)(原)大佛次郎(構案)村山知義(脚)成瀬巳喜男(脚)立花幹也(美)北猛夫(音)飯田信夫(出)佐伯秀男、霧立のぼる、江戸川蘭子、汐見洋、英百合子、丸山定夫、三島雅夫、生方明
人物のモノローグ場面で画面に紗をかけるという奇抜な技法や流麗なカメラワーク、霧立のぼるの美しさが話題になった作品。助監督に黒澤明が参加し、村山知義は「構案」にクレジットされた。裕福な家の息子が、人を疑うことを知らない善良な娘と結婚するが、他の女性への愛を強め、父親の反対に合いながらも、自身に正直であろうと葛藤する。

③ 22日(日) 14:00-15:12

地平線

(72分・35mm・白黒)

'39(大映映画)(監)吉村操、白井戦太郎(原)大宅壮一(脚)村山知義(脚)松井浦、永貞二郎(美)峰八十八(音)杉田良造(出)藤岡林太郎、大河百々代、水島道太郎、近衛十四郎、久松玉城、葉山起子、相澤喜代子、横山文彦、桂木舞夫

外蒙軍と内蒙軍の戦闘が続く満蒙地域で、調査をおこなう考古学者の行動力とモンゴルの王子との交流を描く。当時の「満蒙」国境地域で実際に2か月にわたるロケを敢行した大映映画の大作。大宅壮一の原作では、日本の人類学・考古学の草分けとなった徳島出身の鳥居龍蔵がモデルとされる。村山知義は脚本を担当。

④ 22日(日) 15:30-17:27

人間

(117分・35mm・白黒)

'62(近代映画協会)(監)(脚)(美)新藤兼人(原)野上弥生子(脚)黒田清己(音)林光(出)乙羽信子、殿山泰司、佐藤慶、山本圭、加地健太郎、渡辺美佐子、村山知義、観世栄夫、浜村純

原作は、59日の間海上を漂流し、人肉食いの危機に直面した漁船員たちに肉薄した野上弥生子の「海神丸」。新藤の主眼は「人間が獣に移行するプロセス」であり、そのため動物園に赴いて牛、熊などいろいろな動物の生態を観察したという。当時「忍びの者」を執筆中の村山知義は、新藤監督の依頼を受け、警部役で出演。

MOMAK Films@home



2012年6月23日(土)・24日(日)

⑤ 23日(土) 14:00-15:48

尼僧ヨアンナ

MATKA JOANNA OD ANIOŁÓW
(108分・35mm・白黒)

'61(ポーランド)(監)(脚)イェジー・カワレロウィッチ(原)ヤロスワフ・イフシュキエヴィッチ(脚)タデウシュ・コンウィツキ(脚)イェジー・グワイツツク(美)ロマン・マン(音)アダム・ワラチニェスキ(出)ルチーナ・ウィンニツカ、ミェチスワフ・ウォイト、アンナ・チェビエレフスカ、マリア・フワリブツク、カジミェシ・ファビジャック

世界のアート・シネマ普及を強化させるべく、全国の小映画館10館の連合組織で1962年に発足した、日本アート・シアター・ギルド(ATG)の記念すべき配給第1作。1961年カンヌ国際映画祭審査員特別賞受賞作。中世の尼僧修道院で、美しい院長ヨアンナの悪魔払いに身を捧げる修道士の愛が鮮烈に描かれている。ポスターデザインは、大島弘義。

⑥ 23日(土) 16:00-18:05

大地のうた

PATHER PANCHALI [SONG OF THE ROAD]
(125分・35mm・白黒)

'55(インド)(監)(脚)サタジット・レイ(原)ビブティション・ボンドパッダエ(脚)シュブプロット・ミットル(脚)パンシチャンドラグプタ(音)ラヴィ・シャンカル(出)シュビル・パナルジ、カヌ・パナルジ、コルナ・パナルジ

S・レイ監督のデビュー作。ベンガル地方の農村に暮らす貧しいブラミン(最高位カースト)一家の少年、オパーを取り巻く世界を描く。1956年カンヌ国際映画祭人間ドキュメント賞を受賞し、インド映画の存在を世界に知らしめた。「大河のうた」「大樹のうた」と共に「オパー三部作」と呼ばれ、ATGによる日本公開は1966年。リアリズムに叙情性を与えたシタルムは、この後ジョージ・ハリソンにも影響を与えたラヴィ・シャンカールの演奏。

⑦ 24日(日) 14:00-15:38

大人は判ってくれない

LES QUATRE CENT COUPS (98分・35mm・白黒)

'59(フランス)(監)(脚)フランソワ・トリュフォー(脚)マルセル・ムーシ(脚)アンリ・ドカエ(美)ベルナル・エヴァン(音)ジャン・コンスタンタン(出)ジャン＝ピエール・レオー、クレール・モーリエ、アルベール・レミー、ギイドコンブル、パトリック・オーフェー

F・トリュフォーの長篇デビュー作。大人の世界に対する憧れと嫌悪の間で揺れる少年アントワーヌ・ドワネルを、トリュフォーの生い立ちと重ねるように描いている。こどもらしい無邪気さと大人びた繊細さを、子役レオーが見事に体現した。日本公開は1960年(東和)。野口久光のポスターは、オムニバス映画「二十歳の恋」(1962)のトリュフォー監督編「アントワーヌとコレット」の中でも使用された。

⑧ 24日(日) 16:00-17:39

アルファヴィル

ALPHAVILLE (99分・35mm・白黒)

'66(フランス)(監)(脚)ジャン＝リュック・ゴダール(脚)ラウール・クタル(美)ビエール・ギェフロワ(音)ポール・ミズラキ(出)エディ・コンスタンティニス、アンナ・カリーナ、エイキム・タミロフ、ジャン＝イヴ・コモリ、ミシェル・ドラエ、ジャン＝アンドレ・フィエスキ、クリスタ・ラング、ジャン＝ピエール・レオー

コンピュータが人間を統治する異銀河都市アルファヴィルへ、探偵が行方不明の教授を探しに現れる。フィルム・ノワールなど他ジャンルの要素が混じり込み、SF映画のパロディの域に達したゴダールの異色作で、探偵が恋におちる教授の娘、アンナ・カリーナの流す涙が忘れがたい。1965年ベルリン国際映画祭金熊賞受賞、ATGによる日本公開は1970年。

6月／日本の映画ポスター展特集1・・・ATGと外国映画